

にぎわい

～日本海にぎわい・交流海道推進協議会～

～会員たより～

☆舞鶴・みなとシンポジウム開催報告！！

さる10月16日、第三港湾建設局舞鶴港湾工事事務所五十周年記念行事の一貫として舞鶴港利用促進懇談会主催による「舞鶴・みなとシンポジウム」が開催されました。

第一部では、「環日本海交流と舞鶴港」と題して、国際港湾交流協力会企画委員の三橋郁雄氏による基調講演が行われました。講演では、「交流はボーダーレスになっており、今後も交通産業や港湾関連産業は発展を続ける見通し」と、「ロシア沿海地方と日本海側港湾との接続の重要性を通じて、環日本海交流を視野においた地域発展の新しい道を探る」等の指摘がありました。第二部では、「海・みなと・人」をテーマに、三橋郁雄氏をコーディネーターとして、杉本 佳男氏（放送作家）、高橋 卓郎氏（舞鶴市文化財保護委員会会長）、中野 嘉和氏（京都府港湾課長）、及び港湾利用者からの代表として田中 和人氏（株式会社舞鶴21 専務取締役）をパネリストにパネルディスカッションが開催されました。その中で、海に求めるもの、港に求めるもの、人それぞれの海と港との関わり、市民に解放された港づくりや歴史から見た海と人との関わりについて、熱を込めた意見が交わされました。

当日は、関係者をはじめ港湾利用者や一般市民も含めて多くの方々に参加いただき、これから、まだまだ発展を続けていく舞鶴港の重要性について認識を新たにしました。

（舞鶴港湾工事事務所 西村）



☆「舞鶴港交流フェスタ'98」舞鶴港FAZ施設で開催！！

「舞鶴港交流フェスタ'98」は、国際経済交流の促進及び貿易関連企業等のビジネスチャンスの拡大を図るため、舞鶴港FAZ施設の開業1周年を記念して京都府北部で初めての本格的な貿易促進フェアとして開催されました。

11月21日から23日、及び27日から29日までの計6日間の会期で開催されたフェアは、ロシア総領事、中国と韓国の領事も参加のオープニングセレモニーを皮切りに、環日本海諸国など世界各国から輸入された、衣類、食品、ワイン、絵画、家具や雑貨類など、珍しい品が並ぶ展示商談・即売会を中心に行われました。

会期中は、貿易講演会や輸入車ショー、ステージイベントなど多彩な催しも繰り広げられ、延べ35,000人の来場者を迎え、身近な輸入品に触れていただける機会として関心を集めました。

(京都府土木建築部港湾課 池田)



☆鳥取港の取扱貨物量100万トン突破！！

鳥取港の平成10年の取扱貨物量が、今年9月に開港以来初めて100万トンを超えたのを記念し、鳥取港振興会主催の祝賀会が開催されました。祝賀会には、三建境港湾空港工事事務所次長にもご列席をいただき、貨物量増大に貢献した関係企業に感謝状が贈呈されました。

ご存じの通り、鳥取港は、平成2年に-10m岸壁を有する商港区として船出した訳ですが、その後の取扱貨物量は17万トン前後を低迷し、私が港湾と関わりをもった平成8年当時も、港には、ただ空虚な空間が広がっていただけでした。

時あたかも海外建設資材の利用が叫ばれ、関連企業においても「中国大陸の砂」に目を向け始めた頃ですが、この動きは、鳥取港の活性化について頭を悩ませていた私にとって、まさに渡に船のお話でした。この中国砂の輸入以降、建設資材を中心に取扱貨物量が急激に増加したわけですが、この裏には数々の関係者の御協力・御尽力があったことは、忘れがたいことでもあります。

100万トン突破は記念すべきことではありますが、単なる通過点に過ぎません。環日本海時代を迎え、鳥取港が持つ可能性は計り知れないものがあると考えております。また、鳥取港の背後圏におられる方々に、海運のメリットを提供できるのも、鳥取港において他にはありません。今後も建設資材を中心とした貨物の増加に取り組むとともに、将来の定期航路誘致を夢見て、新たな貨物の開拓について、皆様の英和をいただきながら取り組んでいきたいと考えています。

(鳥取県土木部港湾課長 神谷)

～お知らせ～

「日本海にぎわい・交流海道推進協議会」の活動も来年で5年目を迎えます。

協議会要綱では「当面の5年間を目途に活動を行う。」となっており、今年度、富山県新湊市で開催された総会において、「来年度の総会までにそれ以降の運営方針を固めておくため、会員は年内中に、事務局に意見を提出すること」と決定されています。

各会員におかれましては、平成10年度総会資料P10を参考にいただき、最寄りの事務局（北海局、一～四建）に意見を提出していただけますよう、よろしくお願いいたします。（締切は平成11年1月18日とします。）

(第一港湾建設局企画課 松本)

～編集後記～

今年も残り少なくなりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

冬の日本海といえば、少し暗いイメージをもちますが、そんなイメージを吹き飛ばすくらい港・街・人は”にぎわい”をもち、元気の良さをアピール出来たら、と思います。

来年も”にぎわい”のある紙面・日本海となるよう、どうぞよろしくお願い致します。

編 集

日本海にぎわい・交流海道推進協議会事務局

第三港湾建設局 広域連携推進室 TEL 078-391-8361

FAX 078-325-8288